



## 三國 和音 (みくに かずと)

地質情報研究部門 地球化学研究グループ

今年度より地質情報研究部門地球化学研究グループでお世話になっております、三國和音と申します。今年3月に東北大学大学院理学研究科地学専攻で修士号を取得し、修士型研究員として入所いたしました。修士課程修了までの3年間は主に“プチスポット火山”と呼ばれる小さな海底火山および捕獲岩の地球化学的研究を行い、太平洋プレートが海溝手前でプチスポットマグマによる局所的な化学組成変化を受けている可能性を提示したほか、プチスポット火山の起源マグマが“カーボナタイト質メルトの流入に伴いアセノスフェアマントルが部分溶融したもの”であることを提案し、アセノスフェアはなぜ溶けるのかという問題に取り組みました。

産総研では、地球化学標準物質および地球化学図に関連した研究を中心に行います。歴史のあるGSJの地球化学標準物質に携わることにより、責任のある仕事だということも感じるとともに、責任のある仕事だということも認識も持っております。また、地球化学および分

析化学を主とした研究業務を通じ、新たな化学分析手法の開発にも取り組みたいと考えております。広い視野を持つこと、常に好奇心を持って挑戦することを目標に取り組んでまいります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



## 金木 俊也 (かねぎ しゅんや)

地圏資源環境研究部門 地圏メカニクス研究グループ

地圏資源環境研究部門地圏メカニクス研究グループに配属となりました、金木俊也と申します。2019年3月に大阪大学にて理学博士の学位を取得後、京都大学での4年間のポスドクを経て現在に至ります。

私はこれまで、野外調査・室内実験・数値計算という三つのアプローチから、物質科学的な観点で地震現象を研究してきました。具体的には、過去に地震が発生した断層調査、地震時の変形を模擬した室内実験、地震に特徴的な機構を考慮したモデル計算を行ってきました。

産総研では、安全かつ効率的な地圏開発・利用に資する研究を通じ、エネルギー・環境問題の解決に貢献したいと考えています。そのためには、地圏で生じる災害リスクを、適切に評価する科学技術が不可欠です。これまでの研究背景を生かし、特に地震現象に焦点を当て、リスク評価手法の確立・社会実装を推進したい所存です。また、地質調査総合センターに集まる研究者の方々と協力し、地震現象という自らの専門を飛び出して、学際的な研究を推進したいと考えています。

若輩者ではございますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

